



8回目を迎えた中学生作文コンクール

鎌倉市青少年指導員連絡協議会 会長 下山 浩子

鎌倉市青少年指導員連絡協議会では、毎年市内の中学生を対象にした作文コンクールを実施してきました。今年は「古都鎌倉のまちづくり」が課題で、昨年は「未来に残したい鎌倉」がテーマでした。中学生の視点で、どのような鎌倉にしたいか、熱心にあれこれ検討した力作が毎年何百編と寄せられます。もともとは世界遺産をめざす鎌倉市のあり方を中学生に提言してもらうという主旨ではじめたコンクールでしたが、世界遺産登録を市が取り下げてからも、まちづくりの提案を中学生から聞こうと考え、青少年指導員連絡協議会の重要な催しの1つとして継続してきました。「何が鎌倉にとって大切か」「古都の景観をいかに守っていくべきか」など中学生の意見に毎回目が開かれる思いがします。1月に市議会の本会議場を借りて行う表彰式では、入選作を中学生に朗読してもらいます。市長や議員も真剣に耳を傾け、とてもすばらしい発表会になっています。



第8回中学生作文コンクール表彰式・発表会

このほか、5月の子どもたこあげ大会や、年2回の駅頭での青少年指導員健全育成キャンペーン、秋の1泊2日の子どもキャンプなど、さまざまな行事を通して、青少年と交流を深めています。また、地区の学校とは懇談会を定期開催しています。市内5つに分かれての地区活動も活発で、青少年指導員は休む暇もない忙しさです。

子どもたちの悩みや訴えをいち早くキャッチできるよう、いつも指導員は耳をすませています。



ブロック研修でスキルアップ!

相模原市青少年指導員連絡協議会 会長 市丸 克己

相模原市青少年指導員連絡協議会は、現在27地区あり、各公民館等を中心に活動を行っています。その他、春には「市民桜まつり」や「子ども会交歓スポーツ・レクリエーションフェスティバル」、秋の「親子ふれあいの広場」などの事業に参加、また指導員による「ミニ運動会」で地区を超えた交流も楽しみの一つです。

連絡協議会では広報部・事業企画部・研修部の3つの専門部を組織し、それぞれ各地区からの指導員により構成され、もう一つの活動の基盤としています。

広報部は年2回発行の「連協だより」や今年50号記念となる年間活動誌「はげいとう」の発行を担当しています。

事業企画部では先ほど紹介の市民桜まつり等の事業で、子ども達のニーズに合わせた企画・運営をしています。

研修部は、指導員の指導力向上と情報共有を図ることを目的に、全体研修の他に27地区をAからFまでの6ブロックに分け、ブロックごとで特徴のある研修会を実施しています。地域を対象とした青少年の非行防止講演会の開催や、地区ごとに工作を紹介し合ったり、バルーンアートであればその手法や材料の入手までを含めたレクチャーをしたり、地図を使っての宝探しのグループワークだったり、最近の流行を取り入れた「妖怪ウオッチ体操」などなど、その内容は実にバラエティに富んでいます。

このような専門部の活動を通して、各地区の横のつながりをひろめながら、今後も時代に即した指導員活動を目指します。



妖怪体操を真剣にレッスン中